

まち・ひと・しごと創生第2期別府市総合戦略基本目標・取組KPI達成状況

基本目標1しごとの創生 資源(ひと・温泉)をいかして新たな価値を創り、儲かる別府に進化する。

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	基本目標・重要業績指標(KPI)															自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できない理由等)			
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度				R6年度 目標値		
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値					実績値	達成度
労働人口に占める所得割の納税義務者数の割合			48.08%		46.96%			46.49%			46.35%			46.95%		49.08%	47.22%	96.2%	49.08%		R6の納税義務者数は、定額減税の影響で他年度より少なくなるため、R5の納税義務者数を採用した。		
施策ア 「ツーリズムバレー構想」の推進	①別府の観光産業に新たな風を吹かせる「起業・創業」の強力な推進	・会社設立支援補助金 交付決定 11名 ・創業支援事業補助金 交付決定 13名 ・スタートアップ都市推進協議会「ジャパンスタートアップセレクション」を開催。(※各地域のスタートアップ企業と全国の大手企業・投資家等との協業促進を目的としたビジネスマッチングイベント) 別府市からビジネスマッチング枠として、㈱Emunitas、Mochiron㈱の2社が登壇。チャレンジ枠として、Bedelight㈱が参画。 ・STARTUP KYUSHU 全国から起業家や投資家、海外からもデジタルノマドが集う福岡市主催のイベントに参加。 九州各県から選りすぐりのスタートアップピッチに、別府市からLost Item Delivery㈱が登壇。また、飲食ブースには㈱Silita、あぶき屋が出店。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携に記載した事業と連動	起業・創業件数	65件	67件	70件	104.5%	69件	76件	110.1%	71件	74件	104.2%	73件	81件	111.0%	75件	90件	120.0%	75件	A	交流の機会、サポート体制、起業・創業を後押しするヒト・モノ・情報の供給などが少しずつ形になってきており、この数年間で起業・創業しやすい環境づくりが進んだ。その結果が、KPIを上回る実績値につながったと考える。	
		※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携参照	起業・創業相談対応件数	559件	564件	404件	71.6%	569件	520件	91.4%	574件	615件	107.1%	579件	778件	134.4%	584件	707件	121.1%	584件			
	②別府に新たなビジネスを作り出す人財、別府の観光産業を担う人財の育成	・起業・創業支援事業(DREAM ACADEMY) セミナー2回開催 参加者20名 別府で、共に成長する継続的な「学び舎」となる場を構築し、視野を広く持つ目を磨き、事例を共有することで、起業したい、事業を加速したい人を支援。 ・起業・創業支援事業(ベッポウクワク未来大作戦) 参加者151名 別府市内の学生を対象に、起業家の精神(アントレプレナーシップ)を育むことを目的とした事業であり、起業への関心を高めるだけでなく、子どもたち自身がすでに持っている起業家的素質に気付くきっかけをつくる。また、学校では得られない体験や人たちの出会いを通じて、子どもたちの未来の選択肢を広げ、「自分らしく人生を邁進」を育むことを目指す。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携参照	大学などと連携して実施した講座の受講者数	-	20人	0人	0.0%	20人	32人	160.0%	20人	252人	1260.0%	20人	85人	425.0%	200人	540人	270.0%	200人(累計)	A	リアルでの学びと交流の機会を数多く開催できた。 令和6年度からは小中学生を対象とした起業家精神(アントレプレナーシップ)を育むことを目的としたプログラムを実施し、将来を担う人材育成にも取り組んだ。	
③別府を応援してくれるヒト・企業とのつながりの強化	・BEPPU FAN TOWN コミュニティ参加数 FAN 479名 CHALLENGER 147名 MENTOR 55名 SUPPORTER 134社(R7.3.31時点) ・BEPPU FAN TOWN交流会 6回開催 106名参加	BEPPU サポーターズのメンバー数	-	30者	40者	133.3%	60者	62者	103.3%	90者	102者	113.3%	120者	149者	124.2%	150者	134者	89.3%	150者(累計)	B	令和6年度はKPI値を下回ったものの、「BEPPU FAN TOWN」開設により「ヒト・企業とのつながり強化」につながるコミュニティは着実に構築できていると考える。また、多くのサポーター企業とともに取り組む起業家支援は、別府ならではのモデルとなっている。		
施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化	①「B-biz LINK」との連携	・起業・創業支援事業(ONE BEPPU DREAM AWARD) ファイナリストの「地域課題の解決」や「社会価値を創造する」ビジネスモデルが生まれたストーリーを知ってもらい、多くのサポーターが実現に向けて後押し。 ファイナリスト7名、サポーター企業78社、パートナー機関14機関、マッチング件数82件 ・起業・創業支援事業(DREAM ACADEMY) セミナー2回開催 参加者20名 別府で、共に成長する継続的な「学び舎」となる場を構築し、視野を広く持つ目を磨き、事例を共有することで、起業したい、事業を加速したい人を支援。 ・起業・創業支援事業(ベッポウクワク未来大作戦) 参加者151名 別府市内の学生を対象に、起業家の精神(アントレプレナーシップ)を育むことを目的とした事業であり、起業への関心を高めるだけでなく、子どもたち自身がすでに持っている起業家的素質に気付くきっかけをつくる。また、学校では得られない体験や大人たちの出会いを通じて、子どもたちの未来の選択肢を広げ、「自分らしく人生を邁進」を育むことを目指す。 ・起業・創業支援事業(B-STARTUP) ONE BEPPU DREAM AWARD過去のファイナリスト、BEPPU SPRING VALLEY Certificate受賞者が発表したビジネスプランを伴走支援することで実現をサポート。 支援対象者 第1期生11名 第2期生6名 ・起業・創業支援事業(B-biz LINKメンタリング) 起業・創業を目指す人や興味のある人からの相談会を定期的実施 10件 ・企業・起業家情報発信事業 別府で起業した人の事業紹介やビジネスの種(地域課題等)を発信し、別府でもビジネスができる場であることを認知を上げていく取組を実施。 ・新商品開発・販路拡大事業 地域産物が豊富な別府のノマド環境を活かしてあらゆる視点から商品や観光体験を発案し、それらをカタチにした新商品・新サービスの販路拡大支援。	B-biz LINKが中心となって実施したプロジェクト数	-	1件	1件	100.0%	1件	2件	200.0%	1件	5件	500.0%	1件	5件	500.0%	5件	5件	100.0%	5件	A	「起業・創業等の推進」、「人財育成」、「ヒト・企業とのつながり強化」の3つの柱に基づく「別府ツーリズムバレー」の取組をB-biz LINKと連携を密に進めている。 まさにB-biz LINKが市内の企業、大学、行政、地域の連携・協働のハブとなり、地域経済の持続的な発展と市民の生活の向上に寄与していると考えられる。	
		②大学などと連携した本市の産業を担う人材の育成	市内各大学と定期的な意見交換等は実施。 (※教育機関のカリキュラムに組み入れるなどの効果的・効率的な育成スキームの構築には至っていない)	旅館・ホテル業の人材派遣登録者数	-	50人	0人	0.0%	100人	-	-	150人	-	-	200人	-	-	250人	-	-	250人	E	市内のホテルや旅館の人材不足対策を目的として、令和元年度に宿泊業就労支援事業を実施し、その後も継続の予定としていたことから指標として掲げた。令和2年度はコロナ禍に伴い、宿泊事業者、求職者とも利用ニーズがなく、事業は2年度で終了している。
施策ウ 大学などと連携した産業人材の育成・確保	②大学連携の促進と地域協働の推進	ふるさと納税を活用した別府市と大学の連携事業により、立命館アジア太平洋大学、九州大学病院別府病院の別府市を活性化させるための事業に対し、補助金を交付した。 大学等による「おおいた創生」推進協議会と大分高等教育協議会が発展的に統合し、設立されたおおいた地域連携プラットフォームに参加し、地域課題解決やイノベーション創出について協議した。	施策立案において大学と連携したプロジェクト数	-	1件	1件	100.0%	2件	1件	50.0%	3件	3件	100.0%	4件	2件	50.0%	5件	2件	40.0%	5件	C	令和6年度はKPI達成率40%となったが、各大学と連携し、別府の歴史及び伝統工芸品の普及に関する事業、別府市の観光PRや市民に対し海外の多様な文化に触れる機会を創出する事業などを通じ、別府市の活性化に寄与できた。	
		・地元高校との連携により、探究授業の一貫として生徒の関心のあるテーマについて関係部署の職員が出向き、別府市の取組や制度、市内の現状について講義を行うなど、地元に対する愛着を深めるための取組を行った。 ・7月に高校生を対象にした合同企業説明会を開催 ※参加企業3社 来場者50名 ・12月に大学生や短大生、UJターン含む転職希望者等を対象にした合同企業説明会を開催 ※参加企業3社 来場者35名 ・2月に大学生を対象にTerminal〜別府進出企業と大学生のmeet up〜を開催 ※参加企業9社 参加者(大学生)22名 ・商工会議所やハローワークとの連携により若年者等の就労窓口相談を設置した。	市内高等学校卒業生の就職のうち市内就職率	43.0%	44.4%	40.9%	92.1%	45.8%	41.0%	89.5%	47.2%	45.7%	96.8%	48.6%	48.7%	100.2%	50.0%	46.6%	93.2%	50.0%	B	市内就職率を上げていくことは容易ではないが、別府の産業人材として確保・育成していったために、インターンシップの改善や就職マッチングイベントは継続開催していくことは、市内企業の人材確保支援につながっていくと考える。	
	④UJ ターン の促進や外国人労働者の受入などによる市外からの人材確保	本市の魅力を活かした移住を促進するため、主に以下の取り組みを行った。 ①おためし移住施設の運用を継続することで、本市での生活を体感する取り組み ②東京・大阪・福岡での個別移住相談会の開催 ③移住支援金を地域課題解決のための手段として活用し、公共交通の安定的な維持するためのドライバー不足解消に取り組んだ	移住に関する相談件数	254件	279件	100件	35.8%	305件	85件	27.9%	330件	106件	32.1%	356件	227件	63.8%	381件	365件	95.8%	381件	B	令和6年度は、相談機会の確保により、本市の移住相談件数は365件と高い水準を維持し、目標値に対して概ね達成できた。相談内容も多様化しており、支援制度の案内のみならず、移住後の暮らしや就業等を含めた具体的な検討段階へ接続できた点は成果である。 他方、ターゲット(子育て世帯・若年層・市内卒業生等)に対する情報到達と、相談の継続フォローの仕組みには改善余地がある。次年度は、発信の重点化とフォロー体制の強化により、相談から移住・定住へつながる割合の向上を図る。	

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	指標名	基本目標・重要業績指標 (KPI)																	自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)	
				現状値 (R30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			R6年度 目標値				
				目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値				達成度
施策工 いまある資源を活用 したイノベーションの推進	①竹産業のイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の竹工芸家等を支援するため、小規模事業者7者に対し、販路拡大及び開拓を目的とした国内外での展示販売会及び公募展出品、HP作成に係る経費の補助を行った。</li> <li>別府竹細工を用いたおもてなしを通じ、その魅力を発信する宿泊施設に対し、竹細工の購入に必要な経費の補助を行った。</li> <li>市民が幼少期から竹に触れる機会を提供するため、新生児への竹のベビースプーン贈呈事業を実施し、481本を贈呈した。</li> <li>令和元年度に整備した市有竹林において、下刈りや除伐、遊歩道整備等維持管理を実施した。</li> <li>別府竹細工の作家・職人情報を中心とした公式竹細工Webサイト及びInstagramの開設や、外部のweb媒体に別府竹細工のプロモーション記事の掲載を通じ、別府竹細工を好む層への積極的な情報発信を実施した。</li> <li>竹細工伝統産業会館の指定管理者によるワークショップやイベントの開催、外部行事への積極的な参加等、様々な取組みを通じて別府竹細工の認知度向上を図った。</li> <li>また、市内宿泊施設への特別優待券の設置や、海外からのツアーやホテル等でのイベントでワークショップを実施し、地域との連携による別府竹細工の普及を行った。</li> <li>産地組合と連携し、JR別府駅の駅前広場のモニュメントに竹のオブジェを設置した。</li> </ul>	竹工芸訓練センター修了生の市内就職者数	2人	5人	7人	140.0%	8人	9人	112.5%	11人	13人	118.2%	13人	17人	130.8%	15人	22人	146.7%	15人	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地組合や竹工芸訓練センター等関係機関との連携の下、担い手の確保・育成に取り組んだことにより、竹工芸訓練センター修了生の市内就職者については、目標を上回る人数となった。</li> <li>開発した新製品の売上げについては、東京都内等での展示会を通じて積極的な情報発信を行ったことにより、令和5年度の売上げを上回り、平成30年度の実績から22.2%増となったが、目標を達成することができなかった。</li> <li>宿泊施設等とのコラボ数及び竹細工伝統産業会館の入館者数については、指定管理者によるイベント等を通じた積極的な情報発信等の結果、目標を達成した。</li> <li>また、竹林の整備については、別府公園内の竹林及び令和元年度に整備した遊歩道竹林の維持管理作業を継続して行っている。</li> </ul>		
			竹細工新製品の売り上げ(個数)の伸び率	-	10%	-21%	-210.0%	20%	85%	425.0%	30%	-22%	-73.3%	40.0%	-9.2%	-23.0%	50.0%	22.2%	44.4%	50%				
			竹製品(竹細工)と宿泊施設などとの新規コラボ数	-	2件	0件	0.0%	4件	3件	75.0%	6件	5件	83.3%	8件	8件	100.0%	10件	15件	150.0%	10件				
			別府市竹細工伝統産業会館の入館者数	11,500人	12,080人	5,728人	47.4%	12,660人	8,153人	64.4%	13,240人	11,886人	89.8%	13,820人	13,406人	97.0%	14,400人	14,700人	102.1%	14,400人				
②温泉を活用したビジネス展開の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>温泉に関する検証を深め、別府ONSENアカデミア等で情報発信した。</li> <li>温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、腸内細菌検査等を活用した温泉入浴の効果を検証する実証実験を行い、九州大都市研究センターより分析結果を発表した。</li> <li>温泉入浴が心身にもたらす効果を調査し、エビデンスとなるデータを収集する「大計測会」を実施した。</li> </ul>	温泉を活用した新たなビジネスのモノ・コトの商品化数	4件	5件	6件	120.0%	7件	6件	85.7%	9件	7件	77.8%	12件	11件	91.7%	16件	99件	618.8%	16件	B	温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、具体的な検証を実施し、検証結果を発表することができた。			
		③勤務地・居住地に縛られない企業などの市内におけるビジネス展開の促進	コワーキングスペースの利用企業数	-	10社	8社	80.0%	20社	83社	415.0%	30社	80社	266.7%	40社	81社	202.5%	50社	83社	166.0%	50社	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東圏からのコワーキングスペース利用者が約3割を占めるなど、ワーケーション事業を推進することが多くの県外企業・ビジネスパーソンの呼び込みにつながっている。</li> <li>また、別府でのビジネス展開や拠点設置を検討する企業に対し、きめ細かいフォローをすることが誘致実績につながったと考えられる。</li> </ul>		
			誘致企業数	1件	2件	1件	50.0%	2件	3件	150.0%	3件	6件	200.0%	4件	7件	175.0%	5件	9件	180.0%	5件				
施策才 誰もが活躍できる環境の整備や雇用の促進	①市内企業などの働き方の多様性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関の実施する取組やセミナーについて、ホームページや市報で周知を図った。</li> <li>別府市での予算計上なし。</li> </ul>	働き方改革に関する啓発やセミナーへの参加事業所の働き方に取り組んだ事業所数の割合	-	30%	-	-	40%	-	-	50%	-	-	60%	-	-	70%	-	70%	E	独自の事業が実施できなかったが、関係機関の実施するセミナーや講座については周知を図った。コロナ禍で在宅ワークや時差出勤、オンライン会議等が急激に進んだこともあり、本市においても様々な働き方やワークライフバランスの実現がさらに推進されるような取組を進めることが必要と考える。			
			②仕事と子育ての両立ができる社会の実現	女性の参画を推進する啓発講座参加者数	275人	500人	0人	0.0%	530人	0人	0.0%	560人	120人	21.4%	590人	100人	16.9%	600人	84人	14.0%	600人	C	啓発誌やSNSを活用し固定的役割分担意識を見直す啓発や、女性が働きやすい職場を作るための休暇取得、男性の育児休暇取得についてなどを情報提供することができ、今後も講座やイベント等を通してジェンダー平等の意識を図って行きたい。	
				③障がい者の活躍促進	障がい者の一般就労への移行者数	40人	42人	21人	50.0%	44人	36人	81.8%	46人	50人	108.7%	48人	46人	95.8%	50人	47人	94.0%	50人	A	目標値には及ばなかったものの、昨年より少し上昇し効果的な取り組みを行った。
					④高齢者の活躍促進	事業終了済のため、事業実績なし	4人	8人	-	-	12人	-	-	16人	-	-	20人	-	-	25人	-	-	25人(累計)	D

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	指標名	基本目標・重要業績指標 (KPI)																	自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)
				現状値 (R30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			R6年度 目標値			
				目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値				
施策力 農林水産業の活性化	①農林水産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>【令和6年度】</li> <li>・農業基盤整備促進事業の実施</li> <li>・新規就農者の育成</li> <li>・中山間地域等直接支払交付金の交付</li> <li>・センサーネットワークによる有害鳥獣の被害防止対策の実施</li> <li>・森林環境譲与税を利用した内成地区の森林整備の実施</li> <li>・海底耕うんの実施</li> <li>・栽培漁業推進事業の実施</li> </ul>	農林水産業の担い手確保数	36人	37人	34人	91.9%	38人	33人	86.8%	39人	39人	100.0%	40人	24人	60.0%	41人	34人	82.9%	41人	B	令和6年度は新規参入者は2件確保することができた。 農林水産業従事者が高齢化しているため担い手は減少傾向はあるが、就農相談など今後も取り組みを継続する。	
	②農林水産物の特産品化及び地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばサイダーの製造及び販路開拓を行った。</li> <li>・学校給食による地産地消の促進のため、給食へ地元産物の導入を行った。</li> <li>・「食×観光」事業の推進により、生産者と宿泊・飲食事業者を繋いだ。</li> <li>・農産物の高付加価値化に向けた「環境にやさしい農業研究支援」事業により減農薬・減化学肥料に向けた栽培の調査・研究を行った。</li> <li>・ふるさと納税などをターゲットとした5か所の棚田米食べ比べ商品を製作・販売した。</li> <li>・棚田イベント「湯のまち棚田マルシェ」を天間棚田で実施し、棚田米にあうおかずを宿泊・飲食事業者とともに棚田の生産物を活用して開発した。</li> </ul>	農林水産物の特産品化数	5件	6件	8件	133.3%	7件	8件	114.3%	7件	8件	114.3%	7件	10件	142.9%	8件	3件	37.5%	8件	B	「食×観光」事業の取組として、農業者と宿泊・飲食事業者との交流イベント（生産者めぐりツアー）を実施した。これらイベントや地道なマッチングにより、地元産の農産物の新たな取引が生まれているが、2回実施予定のイベントが台風10号被害のため1回に減り実績値に影響があった。 農産物の高付加価値化に向けて「環境にやさしい農業研究支援事業」により減農薬・減化学肥料による栽培の調査・研究を実施した。 継続して商品の販路開拓に努めるとともに、「食×観光」事業等の取組を推進することにより、さらなる新商品開発や高付加価値化を推進する。	



施策名	取組名	令和6年度 事業実績	指標名	基本目標・重要業績指標 (KPI)															R6年度 目標値	自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できない理由等)	
				令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度							
				現状値 (R30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値					達成度
施策ウ 別府ブランドの構築と飛躍によるひとの流れの拡大促進	①多様なシティプロモーションの強化	・タイ及び台湾をターゲット国として、インバウンド誘客事業を実施した。 ・令和4年度にレンガホールに設置した別府市創造交流発信拠点「TRANSIT(トランジット)」において、別府市の文化・芸術情報や観光客や移住希望者に向けた情報を発信し、世界中の人々に文化芸術のまちとして別府市を認識させるための情報発信事業を実施した。具体的には、別府市内の文化芸術イベント等の情報を国内・国外へ発信した。 ・移住を希望するアーティスト等からの相談に適切に対応した。 ・空き家・空き店舗をリノベーションし、アーティスト等が移住したいと思える制作環境の整備を進めた。	新規プロモーション事業数	-	2件	4件	200.0%	4件	4件	100.0%	6件	6件	100.0%	8件	12件	150.0%	10件	10件	100.0%	10件	B	多様な取組が実施できた。 アーティスト・クリエイターが実施するイベント等を支援する事業を実施したことにより、市民だけでなく、アートの興味のある一定層の県内外住民に情報発信ができた。 移住を希望するアーティスト等からの相談に適切に対応することができた。 アーティスト・クリエイターが移住したいと思える制作環境の整備に向け、創作等施設を3か所整備することができ、前年度の1か所と併せて合計4か所の施設が整備できた。	
	②海外プロモーションの強化による別府の魅力の世界への情報発信	・B-biz LINKと連携し、海外セールスや海外・国内旅行会社との商談を実施した。 インバウンド版WebサイトやSNS広告配信による情報発信に取り組んだ。訪日観光市場で活動する企業等と連携し、訪日旅行を取り扱う海外旅行会社に対して幅広いアプローチを行った。 ・タイ及び台湾をターゲット国として、インバウンド誘客事業を実施した。	外国人向けホームページの閲覧数	16,588回	53,270回	37,365回	70.1%	89,953回	54,484回	60.6%	126,635回	103,329回	81.6%	163,318回	213,202回	130.5%	200,000回	235,000回	117.5%	200,000回	B	海外旅行会社や国内旅行会社との商談やアプローチ、タイ及び台湾をターゲット国とした誘客実施など、訪日客本格化に向けた取組が実施できた。	
施策エ ひとを呼ぶ新しい魅力の創出	①市民・学生大同窓会の開催	市内の大学を卒業した1,008名を対象に出身国や現在の居住地、別府での同窓会に対する意見などの情報をアンケート形式で収集した。その結果、卒業生の別府への想いや同窓会事業に対する関心等を把握することができた。	市内大学のOB・OGの参加者数	-	100人	12人	12.0%	200人	7人	3.5%	300人	228人	76.0%	400人	347人	86.8%	500人	1008人	201.6%	500人(累計)	B	アンケート形式で別府に戻って居住することや同窓会事業に対する関心等を把握することができ、今後事業を実施する上で非常に参考になったため。 また、回答者数も1,000名を越え、目標の約2倍集めることができたため。	
	②ユニバーサルデザインに関連したイベントの推進	・市内小学校児童の『太陽の家ツアー』実施。	ユニバーサルデザイン関連の学習、イベントの参加者数	-	840人	0人	0.0%	840人	292人	34.8%	840人	363人	43.2%	840人	374人	44.5%	840人	480人	43.2%	4,200人(累計)	C	・市内小学校児童を対象とし「太陽の家ツアー」を実施することにより、子どもたちがユニバーサルデザインの必要性について学び、パラスポーツを体験するプログラムに参加でき、ユニバーサルデザインへの先進的な取組の一つのきっかけとする事業が実施できた。 目標値の4200人については市内全校全学年生徒の人数であるが、本事業の対象を4年生のみに限定した(カリキュラムでパラスポーツを学ぶのが4年生のため)結果、実績と比較し差が生じてしまった。 しかし、少子化による児童数の減少に反して参加人数については年々増加傾向にあるためC評価とした。 【参考】 R4:363人 R5:374人 R6:480人	
	(再掲:1(エ)②) ③温泉を活用したビジネス展開の検討	・温泉に関する検証を深め、別府ONSENアカデミア等で情報発信した。 ・温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、腸内細菌検査等を活用した温泉入浴の効果を検証する実証実験を行い、九州大学都市研究センターより分析結果を発表した。 ・温泉入浴が心身に与える効果を検証し、エビデンスとなるデータを収集する「大計測会」を実施した。	温泉を活用した新たなビジネスのモノ・コトの商品化数	4件	5件	6件	120.0%	7件	6件	85.7%	9件	7件	77.8%	12件	11件	91.7%	16件	99件	618.8%	16件	B	温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、具体的な検証を実施し、検証結果を発表することができた。	
	④民間活力の導入を含む公園や海岸などの有効活用	【春木川公園整備運営事業】 西エリア供用開始 【上人ヶ浜公園整備運営事業】 地元説明会開催、事業者との協議	公園などの民間活力を導入した場合(施設設置・指定管理など)の利用者数	-	120,000人	222,441人	185.4%	140,000人	233,780人	167.0%	160,000人	405,032人	253.1%	180,000人	563,500人	313.1%	200,000人	725,342人	362.7%	200,000人	A	KPI達成度362.7%と目標を大きく上回った。令和6年度に春木川公園西エリア、令和7年度に上人ヶ浜公園北エリアの供用開始に伴い、更なる公園利用者の増加を見込んでいる。	
⑤様々なスポーツイベントの開催推進	・別毎日マラソン大会実施 ・べっぴん観見岳一気登山	スポーツツーリズム施策などによる誘客数	8,523人	-	0人	-	-	1,113人	-	6,862人	9,211人	6,435人	11,000人							B	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより徐々に各種イベントも従来の様な盛況に戻りつつある。 薄けむり健康マラソンについては前年度まで記載していたが、台風10号による影響でコース内の数か所で土砂崩れや道路の陥没が発生し、中止を余儀なくされたため、今回は記載していない。 なお、例年1000人程度の参加があるためその分人数が減少している。		
施策オ 「ツーリズムバレー構想」の推進 【再掲:1(ア)】	①別府の観光産業に新たな風を吹かせる「起業・創業」の強力な推進	・会社設立支援補助金 交付決定 11名 ・創業支援事業補助金 交付決定 13名 ・スタートアップ都市推進協議会「ジャパンスタートアップセレクション」を開催。(※各地域のスタートアップ企業と全国の大手企業・投資家等との協業促進を目的としたビジネスマッチングイベント) 別府市からビジネスマッチング枠として、㈱Emunitas、Mochironの2社が登壇。チャレンジ枠として、Bedelight㈱が参画。 ・STARTUP KYUSHU 全国から起業家や投資家、海外からもデジタルノマドが集う福岡市主催のイベントに参加。 九州各県から選りすぐりのスタートアップピッチに、別府市からLost Item Delivery㈱が登壇。また、飲食ブースには㈱Silta、あぶぎ屋が出演。	起業・創業件数	65件	67件	70件	104.5%	69件	76件	110.1%	71件	74件	104.2%	73件	81件	111.0%	75件	90件	120.0%	75件	A	交流の機会、サポート体制、起業・創業を後押しするヒト・モノ・情報の供給などが少しずつ形になってきており、この数年間で起業・創業しやすい環境づくりが進んだ。その結果が、KPIを上回る実績値につながったと考える。	
		※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携に記載した事業と連動	起業・創業相談対応件数	559件	564件	404件	71.6%	569件	520件	91.4%	574件	615件	107.1%	579件	778件	134.4%	584件	707件	121.1%	584件			

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	指標名	基本目標・重要業績指標 (KPI)																	R6年度 目標値	自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)
				現状値 (R30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度							
				目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度						
施策オ 「ツーリズムバレー 構想」の推進 〔再掲：1(ア)〕	(再掲：1(ア)②) ②別府に新たなビジネスを作り出す人財、別府の観光産業を担う人財の育成	・起業・創業支援事業 (DREAM ACADEMY) セミナー2回開催 参加者20名 別府で、共に成長する継続的な「学び舎」となる場を構築し、視野を広く持つ目を磨き、事例を共有することで、起業したい、事業を加速したい人を支援。 ・起業・創業支援事業 (ベッぷワクワ未来大作戦) 参加者151名 別府市内の学生を対象に、起業家的精神 (アントレプレナーシップ) を育むことを目的とした事業であり、起業への関心を高めるだけでなく、子ども自身ですでに持っている起業家的素質に気づききっかけをつくる。また、学校では得られない体験や大人たちとの出会いを通じて、子どもたちの未来の選択肢を広げ、「自分らしく人生を選ぶ力」を育むことを目指す。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化取組①「B-biz LINK」との連携参照	大学などと連携して実施した講座の受講者数	-	20人	0人	0.0%	20人	32人	160.0%	20人	252人	1260.0%	20人	85人	425.0%	200人	540人	270.0%	200人 (累計)	A	リアルでの学びと交流の機会を数多く開催できた。 令和6年度からは小中学生を対象とした起業家精神 (アントレプレナーシップ) を育むことを目的としたプログラムを実施し、将来を担う人材育成にも取り組んだ。		
	(再掲：1(ア)③) ③別府を応援してくれるヒト・企業とのつながりの強化	・BEPPU FAN TOWN コミュニティ参加数 FAN 479名 CHALLENGER 147名 MENTOR 5名 SUPPORTER 134社 (R7. 3. 31時点) ・BEPPU FAN TOWN交流会 6回開催 106名参加	BEPPU サポーターズのメンバー数	-	30者	40者	133.3%	60者	62者	103.3%	90者	102者	113.3%	120者	149者	124.2%	150者	134者	89.3%	150者 (累計)	B	令和6年度はKPI値を下回ったものの、「BEPPU FAN TOWN」開設により「ヒト・企業とのつながり強化」につながるコミュニティは着実に構築できていると考える。また、多くのサポーター企業とともに取組む起業家支援は、別府ならではのモデルとなっている。		
施策カ 交流人口の定住人口への転換	①ふるさと納税を入り口にした関係人口の増加	令和6年度、新たに約50商品の返礼品を掲載開始した。旅行・観光等の体験型返礼品や別府開催のイベントと連動した返礼品等を新たに増やした。 令和6年度の寄附額は約10億2千万円となった。	ふるさと納税の寄附件数	3,920件	5,525件	9,568件	173.2%	7,130件	16,443件	230.6%	8,734件	18,013件	206.2%	10,339件	24,058件	232.7%	11,944件	23,066件	193.1%	11,944件	A	令和6年度はKPI達成度193.1%と、目標を大きく上回った。より多くの寄附者層に向け、別府の魅力PRすることができた。 また、旅行・観光等の体験型返礼品の拡充によって別府への訪問機会を創出し、また、食品や物品の返礼品の拡充にも、返礼品を通じて別府との繋がりを感じていただくきっかけとなり、関係人口の増加に繋がったと考えられる。		
	②移住の促進及び定着に向けた積極的な取組	・空き家新規物件の掘り起こしを継続し、空き家バンクの発信とマッチングを行った。 ・別府市ホームページのほか大分県移住プラットフォームを活用し、おためし移住施設等の情報発信を行った。 ・市内で複数のワーケーション事業が実施され、多数の都市部企業の社員やフリーランスの方が参加した。 ・県主催の移住相談会に参加し、移住相談を実施した。	お試し移住施設利用者のうち移住した者の数	4人	8人	0人	0.0%	8人	3人	37.5%	8人	5人	62.5%	8人	17人	212.5%	8人	3人	37.5%	8人 (累計40人)	C	令和6年度は、相談機会の確保により、本市の移住相談件数は365件と高い水準を維持し、目標値に対して概ね達成できた。相談内容も多様化しており、支援制度を含めた具体的な検討段階へ接続できた点は成果である。 他方、ターゲット (子育て世帯・若年層、市内卒業生等) に対する情報到達と、相談後の継続フォローの仕組みには改善余地がある。次年度は、発信の重点化とフォロー体制の強化により、相談から移住・定住へつながる割合の向上を図る。		
	移住に関する相談件数	254件	279件	100件	35.8%	305件	85件	27.9%	330件	106件	32.1%	356件	394件	110.7%	381件	365件	95.8%	381件						
(再掲：1(オ)④)④高齢者の活躍促進	事業終了済のため、事業実績なし	マッチングイベントの参加者数中の就業者数	4人	8人	-	-	12人	-	-	-	16人	-	-	20人	-	-	25人	-	-	25人 (累計)	D	事業終了のため、事業実績なし		

基本目標3ひとの創生 ひとを大切に、別府で子どもを産み、育て、生きる。

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	基本目標・重要業績指標 (KPI)															自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)			
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度				R6年度 目標値		
				(R30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値					実績値	達成度
合計特殊出生率			1.40%		1.30%			1.26%			1.24%			1.39%		1.42%	1.22%	85.92%	1.42%				
施策ア 時代とまちに即した 子育て支援の充実	①安心して子どもを預けられる 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常保育は33か所で開催し実利用児童数は2,392人であった。</li> <li>・延長保育は33か所で開催し実利用人数は1,218人であった。</li> <li>・休日保育は2か所で開催し延べ利用児童数は525人であった。</li> <li>・病児保育は2か所で開催し延べ利用児童数は延べ1,798名であった。</li> <li>・障がい児保育は33か所で開催し実利用児童数は124人であった。</li> <li>・預かり保育事業は11か所で開催し延べ利用児童数は1,974人であった。</li> <li>・保育所の毎月の受入可能人数についてホームページ上で公開しより多くの入所につながるよう努めた。</li> <li>・保育所の保育士負担軽減のための保育補助者の雇上げに対する補助を10施設について行った。</li> <li>・保育士確保のための保育士就労奨励のための補助を61人に対して行った。</li> <li>・放課後児童クラブは38か所（R6年5月時点）で実施し、登録児童数（R6年5月時点）は1,681人であった。</li> <li>・利用児童数の増加に対応するため、山の手小学校区に新たに児童クラブを新築整備し、放課後児童クラブは39か所となった。</li> </ul>	保育利用決定率（10月1日時点）	94.3%	95.0%	94.9%	99.9%	96.0%	95.1%	99.1%		96.4%		97.4%		98.0%	97.8%	99.8%	98.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯が安心して働けるようにするため、保育所利用定員の維持、障害児保育に対する補助の拡充、病児保育の広域化などを継続して行い、保育ニーズに対応した保育サービスの提供に取り組むことができた。</li> <li>・放課後児童クラブの施設を新たに整備するなど利用ニーズの高まりに対応した。</li> </ul>		
	②子育て世帯の経済的負担の 軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関する事業全般を掲載する「子育てガイドブック」を発行し、子育て支援課、子育て関連施設、子ども家庭課で配布することで、保護者が妊娠前から切れ目なくサービスを利用できるよう情報提供を行った。</li> <li>・幼児教育・保育無償化及び大分にこにこ保育支援事業による認可外保育施設の保育料軽減の実施については、保育施設の協力を得ながら対象保護者への周知を行った。</li> <li>・物産高騰対策として令和4年10月から開始した認可外保育施設を含め保育施設を利用する園児の給食費補助事業について、令和5年度からは対象を3歳児以上に拡大して実施し、令和6年度も引き続き補助を実施した。</li> <li>・放課後児童クラブ保護者負担軽減事業の実施については、各児童クラブを通じて利用者全員に制度を周知した。</li> <li>・子ども医療費助成事業については、令和6年4月から子育て世帯をさらに支援するため、高校生の入院・通院及び調剤に係る医療費助成を拡充した。</li> <li>・子育てほっとクーポン事業は、国の「出産・子育て応援給付金」の創設に伴い、令和5年4月1日より開始された方については、おいた子育てほっとクーポンの交付を行わないこととなった。</li> </ul>	「おいた子育てほっとクーポン」利用率	57.5%	60.0%	55.0%	91.6%	60.0%	60.0%	100.0%	65.0%	61.0%	93.8%	65.0%	82.0%	125.7%	70.0%	95.9%	137.0%	70.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども医療費助成事業については、令和7年度も引き続き、高校生までの入院・通院及び調剤に係る子ども医療費助成を実施し、子育て世帯の安心及び経済的負担軽減を図る。</li> <li>・給食費負担軽減補助事業等について、令和7年度も引き続き実施し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。</li> <li>・その他の事業についても、令和7年度も引き続き実施し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。</li> </ul>	
	③妊娠期から子育て期までの 切れ目のない支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭センターにて、児童福祉部門と母子保健部門が連携し、妊娠期から子育て期まで一体的に妊娠・出産・育児に係る相談支援を行った。また、関係機関や関係部署と連携し、必要な支援につなげた。子ども家庭センターの業務の一部を社会福祉法人（児童福祉団体）に委託することで、専門的知見に基づく支援体制及び夜間、休日、年末年始の相談支援体制を強化した。</li> <li>・育児相談案件数：令和6年度 246件/年</li> <li>・児童相談案件数：令和6年度 705件/年</li> <li>・妊娠届出時にすべての妊婦またはその家族と面接をともにし、生後概ね4か月頃までにすべての家庭に訪問する「赤ちゃん訪問」を実施し、各家庭の状況に応じて必要な指導や支援を行った。</li> <li>・「赤ちゃん訪問」では、産後訪問の拒否や長期滞りなどの家庭などについては、子ども家庭センターでの対面や車椅子での訪問依頼を行うなどして家庭の状況把握に努めた。</li> <li>・妊娠届出件数：令和6年度 594件</li> <li>・赤ちゃん訪問件数：令和6年度 512件</li> </ul>	赤ちゃん訪問の実施率 (当該年度中の訪問実施数/当該年度中の出生数)	96.2% (R28～30年度 の平均値)	96.9%	95.0%	98.0%	97.6%	99.6%	102.0%	98.3%	93.8%	95.4%	99.0%	99.5%	100.5%	100.0%	97.5%	97.5%	100.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期からの面談や赤ちゃん訪問などの母子保健事業や妊娠などからの相談で把握した継続的な支援の必要な家庭については、関係機関等と連携して支援を行った。子ども家庭センターにおいて児童福祉部門と一体的に支援を行うことができるため、よりタイムリーで適切な支援を行うことができる。</li> <li>・出生数は近年減少傾向にあるが、支援が必要な妊産婦は減っていない。今後とも関係機関と連携をはかりながら必要な支援を行っていく必要がある。</li> <li>・子ども家庭センターの業務の一部を社会福祉法人（児童福祉団体）に委託することで、専門的知見に基づく支援体制及び夜間、休日、年末年始の相談支援体制が強化されている。</li> </ul>	
	(再掲：1(オ)②) ④仕事と子育ての両立ができる 社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月15日を含む1週間に別府市男女共同参画週間と定めて様々な啓発活動を実施している。</li> <li>・この期間に市民への啓発としてフォーラムを開催している。</li> <li>日時 令和6年9月13日(金)</li> <li>場所 別府市公会堂 本ホール</li> <li>講師 大塚教育大学教授 小嶋 恭弘氏</li> <li>演題 ワークライフバランス～これからの時代の男性の生き方</li> <li>男女共同参画週間や女性の活躍推進については、事業所や地域でのジェンダー平等の視点で見直す意識啓発を推進するための街頭啓発や啓発「あまてっぴ」ホームページ、公式SNSなどで情報発信を行うとともに、内閣府及び別府市の男女共同参画週間において、キャンペーン等で市民へ直接呼びかけ啓発を行った。また、パーソナルカラーやキッズアナウンスレッスンなどの主催講座を開催した。</li> </ul>	女性の参画を推進する啓発講座参加者数	275人	500人	0人	0.0%	530人	0人	0.0%	560人	120人	21.4%	590人	100人	16.9%	600人	84人	14.0%	600人	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発誌やSNSを活用し固定的役割分担意識を見直す啓発や、女性が働きやすい職場を作るための休暇取得、男性の育児休暇取得についてなどを情報提供することができ、今後も講座やイベント等を通してジェンダー平等の意識を育てていきたい。</li> </ul>	
施策イ 全ての子どもを育む 環境の充実	①子どもの安全安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの防止、早期発見、対処</li> <li>【いじめ解消率】令和6年度 小：70.4% 中：83.7% (問題行動調査より)</li> <li>・児童虐待対策</li> <li>校長会議等において児童虐待が疑われる児童生徒を発見した場合の対応等を具体的に伝えました。</li> <li>また、子育て支援課と連携し、事業対応の協議や情報共有を速やかに行いました。</li> <li>・子どもの貧困対策</li> <li>中学校3校に学習支援教員を配置し、経済的困難を抱える児童生徒に対する学習支援体制づくりを推進しました。</li> <li>・登下校時の見守り活動（ボランティアの活用など）</li> <li>別府市青少年補導員協議会補導員による子どもへの声かけ実績：令和6年度667人</li> <li>・インターネットの利用に関する注意喚起</li> <li>インターネット利用に関するアンケートを実施し、「家族との約束」づくりやネットトラブル回避に</li> <li>に向けた生徒会活動等の取組を推進しました。</li> <li>・防犯教育の実施</li> <li>各小学校でCAPの取組を行いました。</li> </ul>	地域の見守りによる、放課後などの子どもへの声かけ人数	1,108人	1,108人	857人	72.6%	1,260人	855人	67.9%	1,340人	1,272人	94.9%	1,420人	1,304人	91.8%	1,500人	667人	44.5%	1,500人		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校でいじめの未然防止のための「人間関係づくりプログラム」を1回以上実施している割合は81%で、いじめの認知件数総数は1,264件でした。今後もいじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見の取組と組織的対応を行う必要があります。</li> <li>・児童虐待（疑いも含む）事業認知後、関係機関と連携した迅速な適切な対応がとれるようになりました。</li> <li>・登下校時の見守り活動については、別府市青少年補導員協議会補導員が行っている。地域の方から見守られ、安心した生活が送れるまちづくりができていると考えます。</li> <li>・インターネット利用に関し、オンラインゲームやSNS上でのネットトラブルが見られるため、情報モラルに関する指導を行う必要があると考えます。</li> <li>・防犯教育については、防犯の取組を行うことにより、自ら安全を確保する力の育成ができたと考えます。</li> </ul>	
			インターネット使用上の家族との約束設定率（小学生）	77.6%	80.0%	81.6%	102.0%	82.5%	80.7%	97.8%	85.0%	81.3%	95.6%	87.5%	65.6%	75.0%	90.0%	77.4%	86.0%	90.0%	C		
			インターネット使用上の家族との約束設定率（中学生）	62.3%	66.0%	77.7%	117.7%	69.5%	69.9%	100.6%	73.0%	67.7%	92.7%	76.5%	71.8%	93.9%	80.0%	69.4%	86.8%	80.0%			
	②子どもの健康促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>(子ども家庭課)</li> <li>・むし歯予防のために、別府口腔保健センターにて希望者が無料でフッ素塗布できる体制を整えている。</li> <li>また、乳幼児健康診査にて、歯科検診及び歯科指導を行い、むし歯の早期発見や予防に努めた。</li> <li>・1歳6か月児健康診査受診率：令和6年度 99.8%</li> <li>・3歳6か月児健康診査受診率：令和6年度 85.0%</li> <li>小学4年生、中学2年生を対象に、「児童・生徒の生活習慣病予防健診」を実施し、肥満をはじめ、生活習慣病の予防、早期発見に努めている。</li> <li>・児童・生徒の生活習慣病予防健診受診率（小4）：令和6年度 66.3%</li> <li>(中2)：令和5年度 59.9%</li> <li>(健康推進課)</li> <li>小児救急医療や夜間子ども診療を行う子どもの急病などの救急時でも診療を受けやすい環境を整備した。</li> <li>また、「小児救急ハンドブック」を赤ちゃん訪問時に配布し（第1子の家庭）、家庭での救急時の対応について、普及啓発に努めた。</li> <li>・小児救急受診件数：令和6年度 166件（大分県厚生連鶴見病院）</li> <li>・夜間子ども診療受診件数：令和6年度 3,352件</li> <li>(学校教育課)</li> <li>・「小4・中2の健康チェック」について、健康推進課と連携し、受診率の増加に取り組んだ。</li> <li>・「早寝、早起き、朝ごはん」などの基本的な生活習慣の定着を図るため、保健だより等で保護者への啓発に取り組んだ。</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校でフッ素塗布を実施した。</li> </ul>	3歳児のむし歯保有率	15.7%	15.4%	14.2%	107.8%	15.1%	15.1%	100.0%	14.8%	13.5%	100.0%	14.6%	10.5%	139.0%	8.1%	56.3%	14.4%		<ul style="list-style-type: none"> <li>(子ども家庭課)</li> <li>・母子健康手帳交付時に歯の手入れ、歯科健診の必要性について丁寧に説明しており、その影響もあって、幼児歯科健診の受診率が高く、保護者の歯科保健に対する意識の向上によりむし歯保有率の低下に効果を表している。</li> </ul>		
小5 肥満傾向児童の割合	12.8%	12.0%			11.5%	14.3%	80.7%	11.0%	14.2%	77.5%	10.5%	16.8%	62.5%	10.0%	14.6%	146.0%	10.0%		B				
中2 肥満傾向生徒の割合	11.4%	11.0%			10.5%	12.3%	85.4%	10.0%	13.4%	74.6%	9.5%	11.6%	81.9%	9.0%	12.1%	134.4%	9.0%			<ul style="list-style-type: none"> <li>(学校教育課)</li> <li>・肥満傾向児の割合が高いのは、食生活の乱れや、スマートフォン・タブレット等の使用時間の増加による運動不足や生活習慣の乱れの影響が考えられる。今後も取り組みを継続したい。</li> </ul>			
③地域の子育て力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>別府市ファミリー・サポート・センター（子育てのサポートをお願いしたい会員と応援したい会員をマッチングする仕組み）の更なる利用促進や子育てを支える地域の人材の発掘や活用など、地域が持つ子育て力の強化に取り組む。</li> <li>・別府市ファミリー・サポート・センターの利用促進（子育て支援課）</li> <li>・子育て支援センターや児童館などの整備・活用（子育て支援課）</li> <li>・地域全体で子どもたちを育む体制づくりの一環としてボランティア登録システムの継続（社会教育課）</li> <li>・子育て世帯の保護者等対象に家庭教育に関わる今日的な課題解決のための学習機会の提供（社会教育課）</li> <li>・保護者への相談対応、情報提供等を行う家庭教育支援のネットワークを組織（社会教育課）</li> </ul>	別府市ファミリー・サポート・センター登録者数（「まかせて会員」数）	188人	188人	172人	91.5%	188人	156人	83.0%		156人		651人		208人	176人	84.6%	208人		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>(子育て支援課)</li> <li>・ファミリー・サポート・センター事業については、まかせて活動件数は大幅に増加している。</li> <li>・一方、まかせて会員自らの新規登録が減少しており、ファミリー・サポート・センターの活動に関する広報に力を入れている。</li> <li>(社会教育課)</li> <li>・少しずつではあるが増加してきた。コロナ禍以前の戻るよう事業周知と協力を得られるよう努める。</li> </ul>		
		「まかせて会員」の活動件数	337件	337件	405件	120.2%	337件	804件	238.6%		720件		968件		372件	1381件	371.2%	372件					
④子どもの居場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生が放課後などに健やかに時間を過ごせる居場所として、児童館などの活用のほか、地域で子どもを育むための高齢者などの対の活用に取り組む。</li> <li>・児童館の活用（子育て支援課）</li> <li>・子どもと安心・安全な居場所づくりと様々な生活体験・自然体験・世代間交流活動の機会（子ども夢チャレンジ）の提供（社会教育課）</li> <li>・子どもたちの補充学習の機会（放課後トライ・放課後学習教室）の提供（社会教育課）</li> </ul>	児童館施設利用者数	46,667人	47,000人	30,982人	65.9%	47,000人	39,344人	83.7%		39,572人		51,731人		47,000人	51,806人	110.2%	47,000人		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>(子育て支援課)</li> <li>・小学生を対象にした行事が多いが、午前中に利用が多い乳幼児親子への行事の取り組みも工夫してきた。</li> <li>・より多くの子どもたちが参加できる工夫に積極的に取り組む必要性を感じている。今後の取り組みに努めていきたい。</li> </ul>		
		放課後学習ひろばを利用する子ども数	1,936人	2,000人	958	47.9%	2,050人	1,772人	86.4%	2,100人	3,510人	167.1%	2,150人	3,449人	160.4%	2,200人	4,481人	203.7%	2,200人			<ul style="list-style-type: none"> <li>(社会教育課)</li> <li>・より多くの子どもたちが参加できる工夫に積極的に取り組む必要性を感じている。今後の取り組みに努めていきたい。</li> </ul>	
			3,053人	3,100人	1,235人	39.8%	3,200人	1,831人	57.2%	3,300人	1,922人	58.2%	3,400人	1,899人	55.9%	3,500人	2,061人	58.9%	3,500人			<ul style="list-style-type: none"> <li>(社会教育課)</li> <li>・より多くの子どもたちが参加できる工夫に積極的に取り組む必要性を感じている。今後の取り組みに努めていきたい。</li> </ul>	

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	基本目標・重要業績指標 (KPI)																		自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)					
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			R6年度 目標値								
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度									
施策イ 全ての子どもを育む 環境の充実	⑤安全でおいしい学校給食の 提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3献立の給食提供</li> <li>・食育の推進 (延べ273回学校活動)</li> <li>・地元野菜活用の推進 (3,411kg)</li> <li>・通常食及びアレルギー給食の試食会開催(年間13回、延べ212人)</li> <li>・視察の受け入れ、児童生徒などの見学の受け入れ(視察14回、見学1回)</li> <li>・学校図書とのコラボ給食(絵本に出てくるメニュー等)のレシピ考案</li> <li>・給食のレシピを掲載したインスタグラムの投稿(栄養教諭6回、こめつぶ通信1回、SNS6回)13回</li> <li>・児童、生徒が栄養教諭と授業の中で考案したメニューの提供(25件)</li> <li>・子ども達のリクエスト給食の提供(47件)</li> </ul>	学校給食生徒(中学校)1人当たりの1日の残菜量	40.0g	40.0g	40.2g	99.5%	40.0g	38.3g	104.3%	30.0g	45.0g	50.0%	-	-	-	-	-	-	20g	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全でおいしい給食の提供</li> <li>・衛生管理の徹底及び栄養バランスに配慮した献立の編成により、安定した給食の提供を行った</li> <li>・新メニューの開発</li> <li>・旬の食材や地元野菜を活用した新たな献立を考案</li> <li>・児童が楽しめる給食づくりに取り組んだ</li> <li>・試食会の実施</li> <li>・保護者及び地域住民を対象に試食会を開催し給食内容への理解と信頼の向上を図った</li> <li>・児童生徒の意見の反映</li> <li>・QRコードで寄せられた児童生徒の意見を集約し献立に反映させた</li> <li>・地産地消の推進</li> <li>・地域で生産された農作物や食品の積極的な活用に努め、地産地消と食育の推進を図った</li> </ul>	令和5年9月に学校給食センターが新設されたことにより、これまでの単独調理場(小学校給食センター1カ所)と共同調理場(中学校、東山幼小中学校)の調理体制から学校給食センター1カ所での調理体制となり、調理残菜量の測定方法を変更した。具体的には、これまでは水分を絞った後の残菜を測定していたが、学校給食センターでは水分も残菜として測定するため比較ができない。(参考:食べ残し量 全国平均7.1kg・別府市6.3kg)R6年度以降はアンケート調査で評価を数値化する。					
			学校給食児童(小学校)1人当たりの1日の残菜量	20.0g	20.0g	18.2g	109.0%	20.0g	17.9g	110.5%	20.0g	14.0g	130.0%	-	-	-	-	-	-	-				20.0g				
			学校給食児童生徒の満足度(小学生)	89%(R5)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				/	95%	90%	94.7%	95.0%
			学校給食児童生徒の満足度(中学生)	86%(R5)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				/	95%	87%	91.6%	95.0%
⑥教育環境の整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動指導員活用事業の推進</li> <li>・バスケットボール(5)、サッカー・ソフトテニス・吹奏楽(2)、ラグビー・バレーボール・軟式野球・陸上競技・合唱の16名の部活動指導員を配置した。また、民間企業へ部活動指導者の派遣を委託し、バレーボール(3)、バスケットボール・ソフトテニス(2)、サッカー・吹奏楽・陸上競技・卓球の11名の指導員を配置した。</li> <li>・学校教育におけるICTの活用の推進</li> <li>・児童生徒1人1台の学習用タブレット端末整備は完了している。授業内や家庭学習での活用も進みつつある。</li> </ul>	部活動指導員数	5人	8人	6人	75.0%	10人	8人	80.0%	12人	21人	175.0%	15人	23人	153.3%	18人	16人	88.9%	18人	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動指導員活用事業の推進</li> <li>・前年度からの継続の10名は、校長推薦を得ての継続配置だった。今年度は、各中学校のニーズにより、学校長の求める適任者を新規採用することができた。また、今年度も民間企業に部活動指導者を委託し、学校、保護者、生徒からも高評価を得ることができた。</li> <li>・学校教育における活用の推進</li> <li>・児童生徒1人1台の学習用端末の整備が完了し、活用した授業を行う学校も増えている。</li> </ul>						
			学習者用コンピューター整備率	7%	33%	100%	100%	56%	100%	100%	78%	100%	128.2%	100%	100%	100.0%	100%	100%	100.0%	100%			100%	100%				
			ICTを活用した授業を週1回以上行っている学校の割合(全国学力・学習状況調査質問紙)	84%(R1)	87.0%	/	/	90.0%	71.0%	78.9%	93.0%	57.0%	61.3%	96.0%	96.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	100.0%			
施策ウ 別府の未来をつくる 人材の育成	①国際人材の育成強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ12回の国際理解教室を実施した。</li> <li>・内訳は、児童館が1回、支援学校が延べ4回、保育所が延べ7回であった。</li> <li>・参加生徒数は、延べ156人。</li> <li>・内訳は、児童館が延べ80人、支援学校が12人、幼稚園生～小学生が計64人であった。</li> <li>・派遣した外国人留学生は延べ48人。</li> <li>・1回あたりの派遣人数は約4人。</li> </ul>	国際理解教室の参加者数	1,303人	/	783人	/	/	/	234人	/	/	/	/	/	/	1,400人	156人	11.1%	1,400人	B	別府市教育委員会が小中学校対象に独自の国際理解授業を始めたことにより、実績値が低くなったものであるが、実施団体に対し行ったアンケート結果の評価が高く、実績成果として十分評価できるものであったと評価できた。						
			外国の人と友達になりたい、外国のことについてももっと知りたいと思う児童生徒の割合	64.7%(R1)	66.0%	85.7%	129.8%	67.0%	90.2%	134.6%	68.0%	84.2%	123.8%	69.0%	95.6%	138.6%	70.0%	96.0%	136.6%	70%以上								
	③子どもの教育の質の更なる 向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間、特別活動、各教科において「別府学」学習資料を活用した別府学を全学年において5時間以上実施するよう指導した。</li> <li>・全学年で5時間以上別府学を実施できた学校の割合は100%だった。</li> <li>・小学校での年間平均実施時間は1.4時間、中学校では1.3時間だった。</li> </ul>	郷土別府に対して誇りや愛着を持っている生徒の割合	-	50.0%	/	/	55.0%	31.0%	56.4%	60.0%	86.0%	143.3%	65.0%	86.0%	132.3%	70.0%	87.0%	124.3%	70%以上	B	別府学の取組が各学校に定着してきた。各学校における取組内容を紹介し、取組を広めることと併せて各学年5時間以上の実施を継続することが必要である。					
				全国学力・学習調査における平均正答率が全国平均以上の教科数	3教科 小学校1/2 教科 中学校2/3 教科	4教科	/	/	4教科	1教科	25%	6教科	1教科	16.7%	3教科	1教科	33.3%	3教科	1教科	33.3%	全教科全国平均正答率以上							
				全国学力・運動能力調査における総合評価C以上の児童生徒の割合(小5男子)	76.9%	78.0%	/	/	79.0%	81.1%	102.7%	80.0%	76.9%	96.1%	81.0%	73.6%	90.9%	82.0%	71.6%	87.3%	82.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査においては、全国平均正答率を上回った(同率含む)項目の割合は20%だったものの、大分県学力定着状況調査では、偏差値50を上回った項目数が9.4%、別府市学力調査で平均正答率を上回った(同率含む)項目の割合は7.5%となり、学力の定着が見られる。</li> <li>・全国学力・運動能力、運動習慣等調査においては、総合評価C以上の児童生徒の割合が全国値を上回った項目の割合は100%であった。体力向上プランを作成し、PDCAを年間1サイクル以上実施した校数は21校中21校(100%)となり、体力向上に向けた各校の組織的な取組が継続されている。</li> </ul>					
				全国学力・運動能力調査における総合評価C以上の児童生徒の割合(小5女子)	80.9%	82.0%	/	/	83.0%	87.2%	105.1%	84.0%	79.3%	94.4%	85.0%	81.3%	95.6%	86.0%	78.1%	90.8%	86.0%							
全国学力・運動能力調査における総合評価C以上の児童生徒の割合(中2男子)	72.5%	74.0%	/	/	75.0%	69.5%	92.7%	76.0%	64.2%	84.5%	77.0%	68.8%	89.4%	78.0%	77.4%	99.2%	78.0%											
全国学力・運動能力調査における総合評価C以上の児童生徒の割合(中2女子)	84.6%	86.0%	/	/	87.0%	84.6%	97.2%	88.0%	82.9%	94.2%	89.0%	82.1%	92.2%	90.0%	81.9%	91.0%	90.0%											
(再掲:1(U)①) ④大学などと連携した本市の 産業を担う人材の育成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各大学と定期的な意見交換等は実施。</li> <li>・(※教育機関のカリキュラムに組み入れるなどの効果的・効率的な育成スキームの構築には至っていない)</li> </ul>	旅館・ホテル業の人材派遣登録者数	-	50人	-	-	100人	-	-	150人	-	-	200人	-	-	250人	-	-	250人	E	実施していないため。						
			今年度はバレンタインに合わせ、市内のスイーツ店から様々なスイーツを集め開催した。(11月にも開催予定であったが、台風接近のため中止となった)	144人	160人	0人	0%	170人	0人	0%	180人	53人	29.4%	190人	101人	53.2%	200人	44人	22.0%	200人	C	今回初のバレンタインシーズンに婚活を開催したが、参加者のアンケート結果からも概ね高評価を得ることができた。また募集期間中の問い合わせなども多く関心の高さを感じた。今後も、参加者へのアンケート結果等を参考にしながら、参加者数や年齢など次年度の開催について検討していきたい。						
施策エ 男女が出会える環境 整備	①男女が出会える機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はバレンタインに合わせ、市内のスイーツ店から様々なスイーツを集め開催した。(11月にも開催予定であったが、台風接近のため中止となった)</li> </ul>	男女が出会える機会を創出するイベント参加者数	144人	160人	0人	0%	170人	0人	0%	180人	53人	29.4%	190人	101人	53.2%	200人	44人	22.0%	200人	C	今回初のバレンタインシーズンに婚活を開催したが、参加者のアンケート結果からも概ね高評価を得ることができた。また募集期間中の問い合わせなども多く関心の高さを感じた。今後も、参加者へのアンケート結果等を参考にしながら、参加者数や年齢など次年度の開催について検討していきたい。						

基本目標4 まちの創生 ひととまちをまもり、地域と地域が連携する。

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	基本目標・重要業績指標 (KPI)															自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)			
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度				R6年度 目標値		
				(R30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値					実績値	達成度
社会増減			52人減		1,085減			460減		1,202増			593人増		40人増	494人増	122.50%	40人増					
施策ア 生活の質の向上実現に向けた整備	(再掲:2(ア)⑤) ①地域公共交通の利便性向上	別府市公共交通活性化協議会を8回開催(書面開催を含む。)し、市内交通体系について協議した。 東山地区、大所・小坂地区にて乗合タクシー事業実施。 別府市コミュニティバス内成棚田線の実証運行を継続。 自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)制度を活用し、市が運行主体となり、「湯けむりライドシェア 南部循環線」及び「関の江循環線」を定時定路線にて実証運行を開始。JR九州の駅体制の見直しにより、無人駅となっていたJR東別府駅について、簡易委託駅として駅の改集札及び清掃の業務委託を開始した。	人口一人当たりの年間公共交通(鉄道・バス)利用回数	84.2回	85.0回	56.6回	66.6%	85.7回	56.1回	65.5%	86.5回	70.8回	81.8%	87.2回	74.0回	84.9%	88.0回	79.3回	90.1%	88.0回	B	「湯けむりライドシェア 南部循環線」及び「関の江循環線」について、アンケート調査や住民意見交換会を行い、住民のニーズを把握した上で、運行ルートや時刻を設定し、実証運行を開始し、買い物や病院等日常生活の見直しで利用され、リピーターが多く、利用者数は安定している。引き続き利用者や住民の意見を聞きながら実証運行を継続し、持続可能な移動手段を目指していきたい。	
	②誰にもやさしい道づくりの促進	歩道の段差解消等については、令和3年度に関係者を行った現地合同調査をもとに、改善が必要な個所の設計、工事を実施した。また、引き続き市のホームページにおいても通報システムの利用方法を掲載し、利用促進に努めた。 歩道や道路の改良等工事については下記のとおりである。 ・道路整備工事 7件 ・道路維持補修工事 29件 ・通報システム件数/通報件数 259件/2,388件	全要望件数に対するICTを活用した投稿での解決率	1.6%					5.1%						7.9%		10.0%	10.8%	108.0%	10.0%	A	歩道の段差解消工事や舗装側溝改修工事を実施したことにより、より安全な歩行空間の確保が推進できたと感じている。 しかし市内の道路には、まだ数多くの障壁(段差等)があり、通行に支障がある道路が存在していることは把握している。引き続き調査、広聴を行い、優先順位等を検討し、安心安全な道路環境の整備を図っていききたい。 国からの交付金・補助金を活用した道路整備事業等についても、5路線において段差解消、舗装改修工事等を実施しており、誰もが安心して安全に通行できるような道路環境の整備を行っている。 通報システムについて、令和6年度は、令和6年度目標値10.0%に対し実績値が10.8%と目標値を達成できた。令和6年度は、新たな通報システム(Lifeフォーム)の運用を開始し、市報等で広報した成果が出たと感じる。令和7年度も、広報により利用促進を図り、市民生活の質の向上に寄与できるよう活用していきたい。	
	(再掲:2(エ)④) ③民間活力の導入を含む公園や海岸などの有効活用	【春木川公園整備運営事業】 西エリア供用開始 【上人ヶ浜公園整備運営事業】 地元説明会開催、事業者との協議	公園などの民間活力を導入した場合(施設設置・指定管理など)の利用者数	-	120,000人	222,441人	185.4%	140,000人	233,780人	167.0%	160,000人	405,032人	253.1%	180,000人	563,500人	313.1%	200,000人	725,342人	362.7%	200,000人	A	KPI達成度362.7%と目標を大きく上回った。令和6年度に春木川公園西エリア、令和7年度に上人ヶ浜公園北エリアの供用開始に伴い、更なる公園利用者の増加を見込んでいる。	
	④ 遊休公有財産(土地・建物など)の有効活用	・令和6年度遊休公有財産の有効活用について、土地の一般競争入札を実施した件数は2件あったものの、契約まで至ったのは1件であった。 ・市役所庁舎中庭の有効活用について、令和6年6月より予約システムによる運用を開始し、出店者がスマートフォンやPCなどで予約入力を可能とし、市民等利用者は、リアルタイムに出店状況を把握できるようになった。結果として出店者、利用者の利便性向上に繋がりが販促の創出に繋がった。	公有財産の有効活用件数	25件	5件	1件	20%	2件	4件	200%	9件	4件	44.4%	5件	4件	80.0%	46件(累計)	39件	85.0%	46件(累計)	B	第2期計画の最終年度であり、KPI達成率は85%と効果があったものと考えられる。 取組を行うなかで、市営住宅については、入居者の状況がその後の利活用へ大きく影響するものであり、意向を確認しつつ引き続き利活用方針に基づき、早期の売却等に向けて取り組む必要がある。 また、人口減少等による利用率の低下した建物の集約や用途変更による有効活用についても関係各課と協力して行く必要がある。	
	⑤市街地を中心としたにぎわいの創出	・商店街に各種補助金を交付し、商店街活性化に資する事業を円滑に実施できるよう支援した。 ・事業承継に関する個別相談会を継続的に開催した。	空き店舗などのマッチング件数	-		0件	0%		0件	0%		0件	0%		0件	0%	25件	0件	0%	25件(累計)	C	市の仲介によるマッチングには至らずKPIは未達成だが、市街地を中心としたにぎわいの創出には効果があった。	
施策イ 世界一のユニバーサルデザイン都市への挑戦	①誰にもやさしい施設整備の促進	【ユニバーサルデザインマップ】(障害福祉課) 高齢者や障がいのある方、小さな子ども連れの方など、誰もが安心して外出する手助けとなるように、大分県内の各種施設について、利用に配慮した設備に関する情報を掲載した大分県保健企画課が運用している「大分バリアフリーマップ」の周知並びに登録数の増加を図るため、「大分バリアフリーマップ」を市公式ホームページにて令和元年度以前から継続して公開しました。 また、別府・大分バリアフリーツアーセンターが障がいのある観光・旅行客向けに発信している、市内の観光地、ショッピング、飲食店、温泉、公園、交通機関などのバリアフリー情報についても併せて市公式ホームページにて令和元年度以前から継続して公開しました。 【赤ちゃんの駅】(子育て支援課) 令和6年度末での登録施設数は35か所 また、別府駅の赤ちゃんの駅に「搾乳できます」の表示を掲示した。	バリアフリーマップ登録数	468か所	600か所	639か所	106.5%	600か所	640か所	106.7%	600か所	-	-	600か所	-	-	600か所	-	-	600か所	A	【ユニバーサルデザインマップ】 ・令和3年度におけるバリアフリーマップ登録数は640件であり、最終年度のKPIをすでに達成しましたが、最終年度までにこれを下回らないよう留意します。 ・また、登録施設が中心市街地に集中的に分布しているため、登録配布の広域化と登録数の更なる増加を図る必要があると考えています。 【赤ちゃんの駅】 ・令和4年度末の33か所から2か所増えて、令和5年度末に35か所となり、令和6年度目標件数の35か所を達成した。 引き続き、赤ちゃんの駅として協力いただける事業所等を募集し、登録施設数の増加に取り組みたい。	
	②誰にもやさしい道づくりの促進	歩道の段差解消等については、令和3年度に関係者を行った現地合同調査をもとに、改善が必要な個所の設計、工事を実施した。また、引き続き市のホームページにおいても通報システムの利用方法を掲載し、利用促進に努めた。 歩道や道路の改良等工事については下記のとおりである。 ・道路整備工事 7件 ・道路維持補修工事 29件 ・通報システム件数/通報件数 259件/2,388件	全要望件数に対するICTを活用した投稿での解決率	1.6%					5.1%						7.9%		10.0%	10.8%	108.0%	10.0%	A	歩道の段差解消工事や舗装側溝改修工事を実施したことにより、より安全な歩行空間の確保が推進できたと感じている。 しかし市内の道路には、まだ数多くの障壁(段差等)があり、通行に支障がある道路が存在していることは把握している。引き続き調査、広聴を行い、優先順位等を検討し、安心安全な道路環境の整備を図っていききたい。 国からの交付金・補助金を活用した道路整備事業等についても、5路線において段差解消、舗装改修工事等を実施しており、誰もが安心して安全に通行できるような道路環境の整備を行っている。 通報システムについて、令和6年度は、令和6年度目標値10.0%に対し実績値が10.8%と目標値を達成できた。令和6年度は、新たな通報システム(Lifeフォーム)の運用を開始し、市報等で広報した成果が出たと感じる。令和7年度も、広報により利用促進を図り、市民生活の質の向上に寄与できるよう活用していきたい。	
	③こころのバリアフリー化・ユニバーサルデザインの促進	「差別をなくす市民の集い」を開催し、インターネットによる部落差別問題について「ネット人権侵害と部落差別の現実～『寝た子』はネットで起こされる!??」の演題で、一般社団法人山口県人権啓発センター事務局長 川口 泰司さんによる講演会を行った。	「差別をなくす市民の集い」への参加者数	369人	92人				48人		241人				333人		400人	265人	66.3%	400人	C	市報の特集号等で広く周知し、文書や電話、メール等で応募を呼びかけ、参加しやすいように工夫した。 講演会後のアンケートでは、自由意見欄に部落差別問題の今後について真摯な意見が多数寄せられた。 2016年12月に部落差別解消推進法が施行され、部落差別問題の解決に向けた第一歩の取組が求められていることから、次年度以降も部落差別問題を軸に現在起こっている差別について、分かりやすい観点での講演を実施したい。	

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	基本目標・重要業績指標 (KPI)															自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)								
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度				R6年度 目標値							
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値					実績値	達成度					
施策ウ 市民を第一にした行政サービスの実現	①市役所の窓口を始めとした行政サービス改革の実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>LINE公式アカウントの活用を拡充（ごみ分別案内、ごみ収集カレンダーや分野別チャットボット数、国保・後期高齢者、税金チャットボットサービス開始など）</li> <li>順番待ち管理システムの利用継続（児童扶養手当申請窓口、保育所入所申込窓口、市民税申告会場で活用）</li> <li>オンライン申請活用支援（LoGoフォーム等市民向けフォーム活用）</li> <li>ひとまわり、まちまわり協議会との協働で、高齢者向けスマホ講座を実施</li> <li>国民健康保険資格喪失届、介護保険申請関連等びたりサービスの利用</li> <li>水道の使用開始・中止の届出のオンライン化</li> <li>市民税申告会場で順番管理サービスを導入。</li> <li>おくやみコーナーによる窓口一本化</li> <li>マイナンバーカードを活用したコンビニでの証明書交付や市民税窓口での申請書サポートシステムの導入</li> <li>POSレジの導入</li> <li>社会教育施設や市営温泉、水道料金、あすべっぴん温泉利用料、介護保険料、市税、市営住宅使用料・駐車場使用料、市民課・市民税課での証明発行手数料（一部除く）のキャッシュレス決済</li> </ul>	改革による窓口滞在削減 時間数	-	1,800時間	4,050時間	225.0%	5,800時間	4,885時間	84.2%	9,800時間	6,925時間	70.7%	15,300時間	6,622時間	43.3%	18,000時間	9,952時間	55.3%	18,000時間 (累計)	C	市民課や市民税課等マイナンバーカードを活用したコンビニでの証明書の交付は、窓口滞在の時間の大幅削減につながっている。また、キャッシュレス決済の導入により、市民の利便性向上に寄与し、職員の事務負担も軽減されている。デジタルの活用は、市民の利便性の向上に寄与し、職員の事務負担軽減の方向に貢献している。また、市民の利便性の向上に寄与し、職員の事務負担軽減の方向に貢献している。また、市民の利便性の向上に寄与し、職員の事務負担軽減の方向に貢献している。						
	②市役所の業務改革の実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB会議の推進</li> <li>生成AIの活用推進</li> <li>RPAの活用による業務時間の削減</li> <li>水道使用開始・中止の届出、保育所利用申込、別府市競争入札参加資格審査、道路占用許可（協議）申請書等に係る申請の電子化</li> <li>タブレット端末導入による書類のペーパーレス化</li> <li>庁内研修、市町村アカデミー併集、大分県自治人材育成センターでの研修、庁内研修は、随層ごとに必要な能力を身に付けてもらうため、研修のメニューの見直しを行っている。</li> <li>国の提供する「びたりサービス」（マイナンバーカード利用）や、LoGoフォーム利用の推進</li> </ul>	改革による業務削減時間 数	-	50時間	8,694時間	1738.0%	170時間	10,042時間	5907.1%	290時間	6,720時間	2317.2%	310時間	6,809時間	2196.5%	535時間	7,984時間	1492.3%	535時間 (累計)	A	「BEPPU×デジタルファースト推進計画」においては「市民のためのデジタルファースト～ポケットの中にも一つの市役所を～」を目標に掲げデジタルを活用した取組を行っており、本計画期間は令和7年度末までである。「デジタルガバナンス推進計画」を策定したため、市民サービスの向上や職員の事務負担軽減のために「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル」を推進していく。令和6年度はRPAを全庁的に展開したことで、業務時間の大幅な削減に繋がっており、電子申請促進に伴い、今後もRPAの活用拡大をしていく。						
施策エ 行政サービスの実現に向けた財源の確保	①新たな財源を活用した取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>入湯税の超過課税分について</li> <li>①温泉資源の保護、確保、②観光客の快適性確保（ストレスフリー）、③観光客の安全・安心の確保、④観光客を増加させるための事業推進（魅力あふれる温泉地づくり）、⑤観光客の受入体制の充実、にかかわる事業を実施。</li> <li>令和6年度の入湯税は全体額553,200千円。うち、入湯税超過課税分は211,418千円であった。</li> <li>クラウドファンディングについて</li> <li>令和6年度実績なし。</li> <li>企業版ふるさと納税について</li> <li>企業版ふるさと納税は、5社から計5,890,000円の寄付をいただいた。</li> </ul>	企業版ふるさと納税の寄 附金額	-	0円															300,000,000円	B	入湯税超過課税分については、5本柱の事業を着実に実施することができた。クラウドファンディングについては、検討は試みたものの募集期間の短さなどがあり、ふるさと納税での募集としたものがある。引き続きクラウドファンディングでの募集に適した事業の情報収集を行っている。						
	②競輪などの既存の事業収益の向上及び活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>本場開催時の入場者は、ネット投票の普及により、22,811人と前年度と比べ1,524人(6.3%)の減となった。引き続きマルシェを開催し、まちづくり団体等へ施設を貸し出し、イベント等を行ったことで集客を図った。</li> <li>車券売上では、本場開催は104日と前年度と比べ8日(7.1%)の減となったが、民間ポータルサイトでの売上が引き続き好調を維持し、39,737,103千円と前年度比5.9%の増となった。なお、一般会計へは前年度と比べ40,000千円少ない630,000千円を繰り出した。</li> </ul>	別府競輪の事業収益率	3.5%	5.3%																3.6%	A	事業収益率は、令和3年度が5.2%、令和4年度は5.0%、令和5年度は6.1%、令和6年度は6.1%と令和6年度目標値3.6%を大きく上回った。本場入場者数はコロナ禍を経て減少しているものの、民間ポータルサイトの売り上げが引き続き伸びており、車券売上高は増加傾向にある。一般会計繰出金も、令和4年度は6億円、令和5年度は6億7千万円、令和6年度は6億3千万円と市の財政に大きく貢献している。					
施策オ 文化を切り口にしたまちの可能性の拡大	①文化芸術活動を通じたまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>第24回別府アルゲリッチ音楽祭 【テーマ】 ミーティング 混イントー未来を創る 【開催期間】 令和6年5月11日(土)～7月28日(日) 入場者数：7,215人</li> <li>混浴温泉世界実行委員会事業 別府市への「興味喚起の促進」と「参加・関係意識の醸成」を図る以下の5つの取組を実施した。 ＜別府市への興味喚起の促進を図る取組＞ 1.オカルタナイト・スタート 2.文化観光事業 ＜別府市への参加・関係意識の醸成を図る取組＞ 3.ベップ・アート・マンス 4.マルシェ・クリエイティブマーケット 5.アートフェアベップ</li> <li>別府市民フィルハーモニア管弦楽団事業 令和6年度は例年通りの年2回、6月と12月の演奏会に加えて、別府市制100周年記念式典において、別府市歌・行進曲べっぴんの演奏もできた。</li> <li>マーチング・カーニバルin別府 9回目の開催（10/26、27） 別府市制100周年記念事業として開催 参加団体18団体 入場料一律3,000円（27日のマーチングパレードは観覧無料） 観客実績（全体）19,500人</li> </ul>	ベップ・アート・マンスの参加者数	14,590人	27,265人																20,000人	B	【別府アルゲリッチ音楽祭】世界的ピアニストであるマルタ・アルゲリッチ氏を総指揮に第24回別府アルゲリッチ音楽祭を開催した。例年、国内外から多くのファンにお越しいただき評価できる音楽祭となっている。【混浴温泉世界実行委員会事業】より多くの人に「ベップ・アート・マンス」を知ってもらうために一般にも立ち寄ってもらえるプレイベットの『な・ジャンボリー』の開催や、前年度の『ベップ・アート・マンスを考える会』で意見が出た『スタンラリー』をつつろう会有志による自主企画も功を奏し、目標値を大幅に超える参加者数となった。【別府市民フィルハーモニア管弦楽団事業】例年通りの年2回の演奏会の他、記念すべき市制100周年記念式典で演奏するなど、別府唯一の管弦楽団の素晴らしい演奏活動により着実にファンが増加傾向にあると評価している。【マーチング・カーニバルin別府】別府市制100周年記念事業として開催し、天気にも恵まれて前年度を大きく上回る観客数となった。スローガンに「別府をマーチングの聖地！」を掲げているが、着実に聖地に近づいていると評価している。					
	②新図書館などの整備及び活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンプラットフォーム会議の開催</li> <li>新図書館開設に向けた計画的な蔵書の整理</li> <li>別府市新図書館等複合施設の建設工事</li> <li>市民参加型の図書館事業の開催</li> </ul>	図書館の登録者数	25,142人																		60,000人	C	・市民参加型の会議の開催により市民と共に新しい公共空間をつくる意義について理解と共有を図った。 ・市民ニーズや社会動向に柔軟に対応した蔵書構成を行った。 ・定期的な資料展示を実施するなど利用促進の活動を行った。 ・現状値と比べ微増であることからC評価とした。 なお、令和6年の設定目標値については当初、新図書館の開設を令和5年度中としていた際に設定されたものであり、現在、開設時期については令和7年度末へと変更になっている。そのため、目標値は令和8年度へ向け段階的に達成を目指すこととしたい。				
			図書館の一人あたり貸出冊	2.2冊																	2.1	2.4	5.0冊	2.29冊	45.8%	5冊		

施策名	取組名	令和6年度 事業実績	指標名	基本目標・重要業績指標 (KPI)																自己 評価	令和6年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)	
				現状値 (H30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度						R6年度 目標値
					目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策力 協働による持続可能な地域づくり	①地域力の維持・向上	(自治連携課) 市内7つのひとまもり・まちまもり協議会では、それぞれの地域の特性をいかしながら、主体的に地域の課題に向き合い、連携して事業を実施することができた。令和6年度は、地域住民が心身に健やかに生きるためのウェルネス事業や地域資源の活性化に着目した事業等を実施した。地域が目指す未来を実現するために取り組む新たな事業として、朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会では、地域の特産品である天間こんにやくの継承と特産品による活性化に向けて「天間こんにやくプロジェクト」を立ち上げ、こんにやく芋の栽培等の取組を開始した。また、共生社会の実現に向けた高齢者対象スマホ教室の実施、避難所運営を想定した防災訓練などを行った。 市制100周年記念事業として、7つのひとまもり・まちまもり協議会においてこれまでの活動を振り返るとともに、地域の課題や魅力について意見交換を行い、今後のまちづくり活動の指針となる地域ビジョンを策定した。	ひとまもり・まちまもり協議会事業実施数	10件	18件	7件	38.9%	22件	36件	163.6%	24件	57件	237.5%	26件	72件	276.9%	28件	71件	253.6%	28件	A	各地域でひとまもり・まちまもり協議会が中心となり、地域課題の解決に向けて主体的な取組を行うことができた。 (活動例) ウェルネス事業、共同温泉維持管理、農業体験、スマホ教室、防災訓練、清掃活動、あいさつ運動、三世交流事業、スポーツ交流事業、登下校見守り活動、天間こんにやくプロジェクト	
		(社会教育課) (1) 学校における地域学校協働活動の取組実績 ボランティア数：3835人 (2) 子どもの補充学習 参加子ども数：4481人 ボランティア数：902人 (3) 生活体験・自然体験活動、交流活動の機会 参加子ども数：2061人 ボランティア数：1879人 (4) 保護者への相談対応、情報提供等を行う家庭教育支援のネットワークを組織 事業実施数：28 本事業に参加した子どものべ総数：7262人 ボランティアのべ総数：6905人	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業参加者数	1,700人	2,300人	0人	0%	1,200人	1,045人	87.1%	3,100人	3,900人	125.8%	3,800人	9,187人	241.8%	4,500人	9,883人	219.6%	4,500人			
施策キ 誰もが安全安心なまちづくり	①誰もが安全安心なコミュニティの形成	・小学生から大学生までの学生や福祉事業所等を対象に講話などを含む防災教育を17回行うとともに各種イベントへの協力を積極的に行うことで、地域住民等の防災への関心を高めることができた。 ・自主防災組織が中心となり防災訓練を34回行い、防災講話等の支援を実施した。また、大規模災害への備えとして避難所運営訓練を行い、訓練内容に外国人や観光客、要支援者などへの対応を盛り込み、地域防災力の向上を図った。 ・①インクルーシブ防災事業として災害時福祉施設BCP作成研修を3回、そのBCP計画の検証を兼ねて、重度心身障害者入所施設を中心にシミュレーション訓練を1回行った。②庁内連携会議を毎月1回行い、災害時の安否確認アプリの開発を検討し3つのアプリを試作する。会議参加の各課から関係機関の洗い出しを行い、約670団体の名簿を作成、具体的なアプリ使用アプローチのむけて検討を行う。③毎年、障がい者に声をかけ、災害についての勉強会を行っている。今年度も新規の障がい当事者3名が参加した。④地域住民や関係者、全国の自治体職員に向けて、インクルーシブ防災事業の報告会を行った。	中規模多機能自治体主導による連携防災訓練実施数	1区	1区	0区	0%	2区	2区	100%	3区	2区	66.7%	5区	0区	0.0%	5区	0区	0.0%	7区	C	新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、積極的な防災訓練等の実施を促したところであるが、自治会の各種行事の再開などを受けて昨年度と同様の防災訓練等の実施率であった。全国各地で大規模な災害が発生していることから、防災訓練等の重要性などを改めて周知し、実施率の向上を図る。令和5年度に実施できなかった防災士資格保有者への研修を開催したい。 また、ひとまもり・まちまもり協議会主導による連携した防災訓練は実施されなかったため、協議会との効果的な連携要領について検討し改善していきたい。	
		災害・事故時においても、市民や観光客への影響を最小限にとどめるため、基幹管路の耐震化、基幹施設の2系統化へ向けた取組を行った。 ・寒原水系バックアップ施設築造工事(第2期) L=12.8m ・令和6年度 朝見水系500mm配水管布設工事 L=129.0m ・新船返～野口原 300mm送水管布設工事 L=261.3m ・扇山浄水場250mm送水管布設工事 L=59.8m	配水池の耐震化率	40.5%	49.0%	48.7%	99.4%	49.0%	48.7%	99.4%	50.6%	48.7%	96.2%	50.6%	48.7%	96.2%	50.6%	48.7%	96.2%	50.6%			C
②災害に強いまちづくり	健康寿命延伸事業の参加者数	46.2%	46.3%	46.5%	100.4%	47.1%	47.0%	99.8%	48.2%	47.1%	97.7%	48.9%	48.4%	99.0%	49.2%	48.8%	99.2%	49.2%					
施策ク 健幸を実現するまちづくり	①全ての世代の活躍に向けた健康寿命延伸の推進	令和6年度も令和5年度と同様に、全市民を対象に参加者の募集を行った。参加者の健康意識が高く保つため、事業参加者に「歩くこと」以外にも関心を持ってもらうために、歯科衛生士による「歯の健康」についてのセミナーや、県の食育人材バンクの管理栄養士からの生活習慣病予防についての健康講話を提供した。また、市民の野菜摂取量向上のため、ペジチェック測定会のお知らせを行った。	健康寿命延伸事業の参加者数	-	1,000人	0人	0.0%	2,000人	197人	9.9%	2,000人	842人	42.1%	7,000人	1542人	22.0%	10,000人	1942人	19.4%	10,000人(累計)	E	令和6年度は、424名の新規参加者があり、10代から90代までの幅広い世代の市民が参加した。別府市「みんなで健活ポイント」事業に参加した方の結果として、事業参加者の平均歩数は全国平均値を上回っているとの報告があった。 事後アンケート結果によると「健康習慣が身についた」や「活動量計を持っていると歩きやすい気持ちになる」という声が多く見られた。「毎日の歩数結果を見るのが楽しみ・体組成計を見るのが楽しみ」として、事業参加者における運動習慣や健康的な習慣についての意識の向上や改善が見られた。しかしながら、KPIと実績には大きな乖離があり、達成は困難である。 課題として、事業参加者の約60%がデータ送信を行っておらず、継続して稼働率を高めるために、次年度以降の取り組みにて改善を図る。	
		②「ゆけむり医療ネット」と連携した医療・保健・福祉環境の強化	「ゆけむりあんしんパレット」登録者数	-	1,300人	174人	13.4%	1,300人	180人	13.8%	1,300人	198人	15.2%	5,200人	198人	3.8%	6,500人	0人	0.0%	6,500人(累計)			